



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941
2024年6月26日
第763号



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

大会を成功に導いた議長団



▲新保代議員(大宮)



▲川崎代議員(横浜)

全ての方針が満場一致で可決！ 新体制誕生！



2024.6.18～19 ソニックシティ 小ホール

2024年6月18日～19日、JR東労組は第43回定期大会を開催し、「スローガン」「運動方針」「予算」「規約の改正」など全ての方針が満場一致で可決されました。大会では、JR東労組を取り巻く状況を突破するために1万人組織をめざしていくことや、組合員・乗客の信頼を損なう事象が発生していることに向き合っていくこと等が確認されました。

質疑では、29名の代議員から「組織強化・拡大」「安全」「異常な職場管理」「会社施策」「ローカル線」「他労組」「組織再編」などが発言され、大会方針が豊富化されました。また、役員選挙では加藤委員長、高橋書記長の新体制が確立し、可決された方針の下、JR東労組運動を推し進めていくことが確認されました。

スローガン

- 「2024 JR 総連春闘」で培った組織力を基礎に労働者意識を高め、職場の努力に報いない経営姿勢と職場で発生する諸課題に「職場からの挑戦」で立ち向かい、組織の強化・拡大を全組合員でつくり出そう！
- 成果・評価主義型人事・賃金制度では安全は守れない！命を最大の価値基軸に安全哲学の再確立！安易なローカル線の見直し反対！あらゆるハラスメントを撲滅！現場第一主義で「安全・健康・ゆとり」が担保された職場を創造するため、全組合員でたたかおう！
- あらゆるテロにも戦争にも反対！「抵抗とヒューマンイズム」の精神を根底に憲法9条を守り広める輪をつくり出し、平和で安心して暮らせる社会を実現させるため、全組合員でたたかおう！

命を最大の価値基軸とし 経営姿勢に向き合おう！

4月26日、東海道線・生見尾踏切で発生した人身事故時、運転士や消防・警察などが隣接線で作業していたにもかかわらず、抑止が解除された事象が発生しました。原因究明委員会の議論では、多くの作業者が携わる状況で抑止を解除するプロセスなど具体的な課題も明らかになりました。

2002年11月にJR西日本・塚本〜尼崎間で救助を行っていた救急隊員が特急列車にはねられた死亡事故と同一事象であり、ひとつ間違えば多数が死亡していたかもしれません。

「安全計画2028」で「想定外も想像して安全を先取る」と言いながら、みどりの窓口削減計画を凍結しました。予防安全ではなく事象が発生してから対応する「発

佐藤中央執行委員長挨拶



過去最大の格差に対して「職責は重要な要素ということから鑑みて合理的な差である。格差ではない」と経営側が認識を示しました。人事・賃金制度の改正が狙われていることへの危機感を持ち、職責から評価による格差へと変わろうとする更なる評価主義型への変更は安全の観点からも許してはなりません。

現在、物価上昇に賃金が追いついていない状況です。春闘では、JR総連加盟8単組の賃上げは平均4.11%でした。連合の全産業平均5.17%に届いていない状況です。しかし、経営幹部は「高輪開発がまさに頂点に達している」「この投資と施策の成功が社員還元につながる」と社員を納得させようとしています。

私たちは「経営への参画意識の醸成」「社員化」が貫かれている経営姿勢を明らかにし、一部管理者による職場管理強化と、組合員・社員間の分断や差別化に立ち向かっていかねばなりません。

昨年の定期大会以降、59名の皆さんにJR東労組へ加入していただきました。その一方で「加入はもう少し様子を見たい」という声もあります。このような現実をつくり出しているのも私たちであり、お互いに本音を出し合いながら職場の実践を学び合い、反省すべきことは反省し、成果と課題をハッキリさせていくことが大切です。

私たちがめざすところは、時には厳しく、時には優しく、こういった社会で本音を出していくことです。あと一歩で組織拡大」という声はまだあります。現実を掴みながらJR東労組の未来を確かなものにするために、1万人組織実現に向けて全組合員が一丸となって組織拡大をつくり出そうではありませんか。

大会代議員から報告を受け、各機関の方針を確立しよう



生主義」の状況になっているのではないのでしょうか。マスクも「JR東日本が事故を矮小化しようとしている姿勢」に危機感を持っています。

また、熱海運輸区では、運転士が熱海駅でプレーキ扱い中、停止位置約20m手前のところで管理者が運転士に対して中指を立てる侮辱行為が発生しました。経営側の倫理観はなくなってしまったのでしょうか。私たちはこのような経営姿勢を突破していかなければなりません。

安全に対する危機感を職場で訴え、発生する現実に対し向き合っていかなければ、仲間と利用者の命は守れません。

命を最大の価値基軸にあらゆるハラスメントを許すことなく、鉄道の安全を脅かす社員間の競争を過度に煽る評価・成果型人事・賃金制度の導入には反対の立場を明確にしていきたいと思います。

JR東海労の心ある組合員・OB会員と共にたたかおう！

6月3日JR総連第40回定期大会で、JR東海労に対しJR総連の機関決定である「二重加盟の解消」「新幹線関西本線のHP上の掲載文書の削除」が履行されなかったために統制委員会が設置されました。

さらに東海労役員2名が貨物労組選出の近畿地協津崎議長に対して、組織破壊をでっち上げたとして個人訴訟を起しました。JR総連加盟単組である東海労役員が貨物労組役員を訴えるなどあり得ません。JR東労組は東海労の心ある組合員・OB会の皆さんと共にたたかおうことを表明します。



大会で津崎議長への檄を取り組む

安易な赤字路線の廃止に反対！
あらゆる戦争政策に反対！
職場と地域から連帯の輪をつくり出そう！

JRは国民の税金によってつくられた鉄道施設・用地を国鉄から継承して発足した企業であり、JR東日本は首都圏輸送、駅周辺の固定資産の運用による利益によって経営維持が可能と判断されました。当時の経営幹部は「鉄道の財産は国民の財産であり、国民の財産を頂いたのだから地方路線は守らなければならない」と話していますが私も同感です。

この間、私たちは人口減少の現実のなかで、地域と連携を深めながら、駅周辺や地域の活性化、利用者の促進という議論を積み上げてきました。岩泉線廃線での「線路が廃止され、駅がなくなり地域は衰退した」という声を重く受け止めました。私たちは厳しい社会現実のなかで地域の皆さんと手を取り、知恵を出し合いながら、困難を乗り越えていきます。利益だけを追求した安易な赤字路線の廃止には反対し、地域の足を守り、地域に親しまれる鉄道をめざすために地方本部、議員、地域の皆さんと連携を強化し、具体的に議論を進めていきます。

現在、ロシア・ウクライナ双方の兵士の死傷者数は50万人を超えていると言われています。戦争によって多くの利益を得るのは軍需産業です。岸田政権が台湾有事を煽り、自衛隊配備による軍備増強をはかり、日本企業が製造・設計した武器によって人の命が奪われることなどあってはなりません。

私たちは平和研修で「軍隊は市民・労働者の命を守らない」と学びました。だからこそ9条連、議員、有識者の皆さんとの連携を強化し、職場から地域から「戦争反対！憲法9条改悪反対！」の声をあげようではありませんか。